



新しいことにチャレンジしたくなる年の初め。歌舞伎に出かけてみませんか？ 歌舞伎の公演は通常昼の部、夜の部の二部制で、多くはタイプの違い3~4演目のハイライトを組み合わせて上演します。公演時間は休憩を含め4~5時間くらい。幕間にはお弁当を食べたりお土産を見たり、半日遊べるエンターテインメントです。公演はほぼ一年中行われていますが、おすすめは1月！ 晴れ着姿のお客さんも多く、劇場全体がうきうきする空気です。特別な服装や持ち物はありません。気軽にデビューしちゃいましょう。

まずはお試し、「一幕見」！

「まずはちょっとだけ観てみたい」「料金がなくてハードルが高い……」というあなた。歌舞伎座、大阪松竹座、博多座などには、「一幕見席」という好きな演目だけを観られるチケットがあります。お値段は500~2000円ととってもお手頃！ 購入は当日劇場窓口のみ。発売時刻や料金は公演初日に発表されるので、「歌舞伎美人」サイト(<http://www.kabuki-bito.jp/>)の「ニュース」をチェックしましょう。ちょっと並びますが、それだけの価値はありますよ。

「化粧」で性格や年齢がわかる

歌舞伎の「隈取」は、血管や筋肉をデフォルメしたもの。身分や性格を示しています。赤い隈は若さや正義、強さを表現。藍色の隈はスケールの大きな悪役や怨霊などに使われます。女方の化粧にも、役柄を表現する様々な工夫が。口紅や目を囲む「目はり」は若い役ほど赤く、年を取った役ほど茶色を混ぜて黒っぽくします。お姫さまや身分の高い遊女・花魁は、肌の白さを強調するために白粉を二度

三度と重ねますが、老人の場合は肌色が透けるくらい薄塗りです。会場によっては有料でオペラグラスも借りられるので、顔を見比べてみるのも一興です。



隠れた名脇役、大太鼓

歌舞伎の伴奏はすべて生演奏。舞台上に見えている浄瑠璃や三味線だけでなく、効果音も舞台に向かって左側、下手にある黒い塀の向こうで演奏されています。中でも天候や自然の情景を表すのに活躍しているのが大太鼓。雨や風、川の流れる音まで、細長いばちで打ち分けます。雪の場面では、「どーん、どーん」と先を布や綿で包んだばちで柔らかく叩きます。実際雪が降るときに音はしませんが、雪の日の静けさが伝わってくるよう。テレビでも耳にする、幽霊が現れるときの「ドドロロ……」という効果音も大太鼓です。客席から姿は見えませんが、物語を盛り上げる隠れた名脇役にも、ご注目ならぬご注目！



700円で大違い！ イヤホンガイドで歌舞伎通に

初心者の方に全力でおすすめしたいのが、あらすじや見どころ、役者の紹介をしてくれるイヤホンガイド。観劇の邪魔をしない絶妙なタイミングで、解説が入ります。時代背景や仕草の意味がわかると、楽しさも倍増。借り際には使用料700円と保証金を合わせた額を支払いますが、保証金はあとで戻ってきます。観終わった頃には、あなたも歌舞伎通！

公演案内(2016年1月~4月) 東京では一年中ほぼいつでも観られます！

- 東京／歌舞伎座 1/2~26 壽初春大歌舞伎、2/2~26 二月大歌舞伎、3月 三月大歌舞伎
 - ・新橋演舞場 1/3~24 初春花形歌舞伎
 - ・浅草公会堂 1/2~26 新春浅草歌舞伎
 - ・国立劇場 1/3~27 初春歌舞伎公演

- 大阪／大阪松竹座 1/2~26 壽初春大歌舞伎、3/1~25 スーパー歌舞伎IIワンピース
- 福岡／博多座 2/4~21 坂東玉三郎特別舞踊公演、4/2~26 スーパー歌舞伎IIワンピース
- 香川／旧金毘羅大芝居・金丸座 4/9~24 四国こんびら歌舞伎大芝居

*そのほか、京都四條南座でも定期的に歌舞伎公演が行われています。夏や秋には全国各地の劇場やホールを回る巡業も。

Illustration / Takao Nakagawa

参考:[書籍]長谷一美編『歌舞伎の化粧』(雄山閣 2014)
八坂賢二『音で観る歌舞伎—舞台裏からのぞいた伝統芸能』(新評論 2009)
[WEB]歌舞伎への誘い <http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/kabuki/jp/>
歌舞伎公式サイト 歌舞伎美人 <http://www.kabuki-bito.jp/>
歌舞伎らんど <http://t.pia.jp/feature/stage/kabuki/>